

南牧村の学校環境の課題

1. 北 小

(1) 学校教育の現状

◎施設・環境面

【学校施設として好ましい面】

- ・南向きの校舎で日中の日当たりもよく、風当たりも強くない。
- ・校庭が芝生であり、厳冬以外は一年を通して野外活動が可能である。
- ・校舎の構造がハモニカ型の三階建てであり、教室配置がシンプルで全体の間取りが把握しやすい。
- ・校庭で活動する子供たちの姿がどの部屋からもよく見える。
- ・行事等で体育館に移動しやすく、外からの対応も容易である。
- ・ランチルーム、プールが明るく、開放的である。
- ・保健室が南向きで明るく、居心地がよい。
- ・視聴覚室、図書室、音楽室、パソコンルームが絨毯張りで直に座ることができ、使い勝手がよい。
- ・校庭以外にも近隣に安全にマラソンをする道路があり便利である。
- ・小海分院に三校で一番近い。

【学校施設として好ましくない面】

- ・校舎北側に山腹が迫り、廊下が暗く、冬場の寒さがある。
- ・昇降口に入る児童の姿が見れるのが職員室の小窓だけである。
- ・2・3階のベランダは、活動の激しい子どもには心配である。
- ・低学年には3階まで上がり下りするのが大変。
- ・雨漏りなどの老朽化が激しい。
- ・国道から学校に入る交差点が、見通しが悪く危険である。

【使用可能教室】

普通教室6、理科室、音楽室、家庭科室、図書室、保健室、図工室、視聴覚室、パソコンルームが各1、余裕教室が無い。

◎運営面

- ・放課後、全校で使える自由時間が取れない。
- ・スクールバスは中学校との併用であり、登下校の時間設定が難しい。
- ・体験型学習の足として、バス運行が不可欠である。
- ・コミュニティスクール活動として、地域の皆さんに協力を得ているが、それぞれの地区を題材とした学習や地域に出かけての学習が少ない。
- ・任地居住でない教職員が多く、時間的に臨機応変の学校運営は難しい。
- ・佐久地区居住教員が多い（佐久の文化を理解している）

(2) 今後予想される課題

- ・特別支援教室が必要
- ・児童数の減による児童会の運営
- ・体育（ゲーム形式）、運動会など行事の運営（種目、係）
- ・多様な意見発表や話し合い、グループ活動ができない。
- ・PTA活動の制約
- ・教員配置（初任者、独身、若い）

2. 南 小

(1) 学校教育の現状

◎施設・環境面

【学校施設として好ましい面】

- ・校庭が広く、多目的な屋外活動が可能である。
- ・職員室から登下校する児童の姿がよく見ることができ、声掛けがしやすい。
- ・多目的スペースがあり、ミニ集会など体育館を使うまでもない活動に使える。
- ・玄関から続く廊下が展示スペースとして有効活用できる。
- ・変則的だが2階建てで、児童には安全。
- ・図書室が明るく、日当たりがよく最高の環境である。

【学校施設として好ましくない面】

- ・校庭で遊ぶ児童の姿が職員室や教室から全く見えない。
- ・教室配置が複雑で全体の把握がしづらい。
- ・普通教室棟は、1階建てで地形的に低く、廊下に階段があり、全体的に暗く開放感に乏しい。
- ・冬場の強風や寒さにより、屋外での活動が制限される。
- ・保健室は、職員室や教室から遠い。

【使用可能教室】

普通教室6、理科室、音楽室、家庭科室、図書室、保健室、図工室、視聴覚室、パソコンルームが各1、特別支援教室2であり、余裕教室が無い。

◎運営面

- ・徒歩通学の範囲が広く、通学上の心配がある。
- ・スクールバスは中学校との併用であり、登下校の時間設定が難しい。
- ・特別支援学級は2学級あり、支援を要する児童への対応ができる。
- ・任地居住の職員が多く、臨機応変の学校運営が可能である。
- ・体験型学習の足として、バス運行が不可欠である。
- ・晩秋から春先までの長期間、校外活動が制限される。

(2) 今後予想される課題

- ・児童数の減による児童会の運営
- ・体育（ゲーム形式）、運動会など行事の運営（種目、係）
- ・多様な意見発表や話し合い、グループ活動ができない
- ・PTA活動の制約
- ・教員配置（初任者、独身、若い）

3. 中 学

(1) 学校教育の現状

◎施設・環境面

【学校施設として好ましい面】

- ・山塊に囲まれ日当たりもよく、強風などの心配がない。
- ・グラウンドの排水がよく、雨が上がればすぐに使用できる。
- ・ランチルームと二階建ての体育館の構造が機能的であり、使い勝手がよく明るい。

【学校施設として好ましくない面】

- ・玄関は広いが、職員室から昇降口の生徒の姿がまったく見えない。
- ・管理棟は構造が閉鎖的で、会議室に窓が無く圧迫感がある。
- ・屋外プールは使用期間が短く、管理が大変である。
- ・駐車場が狭い。
- ・周囲の山林の手入れがされず、カラマツの成長により空が狭く、野生動物の出没がある。
- ・グラウンド前の道路が冬期間凍結し危険である。
- ・全体的に除雪がしづらい。
- ・雨漏りなどの老朽化が激しい。

【使用可能教室】

普通教室6、理科室、音楽室、技術科室、被服室、調理室、美術室、図書室、保健室、パソコン室、会議室が各1、特別支援教室2であり、余裕教室が無い。

◎運営面

- ・スクールバスの運行に合わせた日課設定が必要になる。
- ・生徒の拘束時間が長い、学校で自由に使える時間が少ない。
- ・生徒会や部活動などの休日登校は家庭対応になる。

(2) 今後予想される課題

- ・身に着けなければならない知識が多いが解決力が身につかない。
- ・教員数の減（1教科1教師）授業改善が図れない。
- ・免許外教科担当を置かざるをえない。
- ・部活動の運営

○三校共通として

- ・小人数の職員数により、職員1人が受け持つ係が多く負担が大きい。
- ・子供たちが少ない分、個別指導に手が回り、個々のメリットがある。
- ・手が入りすぎて、子ども達と教師の関係が難しくなることがある。
- ・スクールバスの利用による運動不足。

学校別決算状況(H18~H27)

単位:千円

年度	学校	総決算額	人件費	人数等	工事費等	内容
18	北小	19,395	5,361	講1、用1		
	南小	276,534	8,369	講1、用1	254,555	体育館改修、プール
	中学	40,158	9,909	講3、用1		
19	北小	48,022	5,421	講1、用1、支0.2	28,823	校庭芝生化
	南小	117,120	8,965	講1、用1、支0.2	95,569	校長室、職員室改修
	中学	35,911	10,041	講3、用1		
20	北小	18,865	7,036	講1、用1、支1		
	南小	26,970	5,413	講1、用1、支1	2,697	プール熱交換機
	中学	55,690	12,712	講4、用1	20,740	プール、渡り廊下
21	北小	20,968	6,722	講1、用1、支1		
	南小	25,582	7,047	講1、用1、支2		
	中学	40,989	15,988	講4、用1	1,260	プール更衣室
22	北小	22,950	8,590	講1、用1、支3	2,093	地下タンク、プール
	南小	23,712	7,128	講1、用1、支2	2,400	体育館照明、放送機
	中学	41,465	16,314	講4、用1		
23	北小	23,988	7,619	講1、用1、支2	3,072	トイレ
	南小	34,688	7,753	講1、用1、支2	9,202	電源、トイレ
	中学	58,880	15,716	講4、用1	19,901	暖房、外壁
24	北小	23,804	8,076	講1、用1、支2	1,496	電源
	南小	26,558	8,452	講1、用1、支2	1,793	プールサイド
	中学	40,079	16,471	講4、用1		
25	北小	28,759	8,351	講1、用1、支2	4,075	トイレ内壁
	南小	64,067	8,103	講1、用1、支2	38,431	プール屋根、犬走り
	中学	46,825	15,041	講4、用1	9,303	プール、体育館屋根
26	北小	24,125	8,454	講1、用1、支2		
	南小	25,288	8,343	講1、用1、支2		
	中学	34,200	12,570	講3、用1		
27	北小	23,732	9,293	講1、用1、支2		

	南小	23,268	6,829	講1、用1、支2	691	音響
	中学	42,715	11,424	講3、用1	14,840	雨漏り修繕
計	北小	230,876	65,630		39,559	
	南小	620,519	69,573		405,338	
	中学	394,197	124,762		66,044	

北小:S56年工事開始、S58年二期工事完了(築34)

南小:S58年工事開始、S59年二期工事完了(築33)

中学:S52年工事開始、S54年三期工事完了(築38)

佐久管内町村別

小学校統計

町村名	H16				H27					
	小学校数	学級数	児童数	人口	小学校数	学級数	児童数	減少率	人口	減少率
南牧村	2	12	220	3,450	2	14	190	-13.6%	3,055	-11.4%
川上村	2	17	353	4,892	2	14	180	-49.0%	3,862	-21.1%
南相木村	1	6	79	1,484	1	6	58	-26.6%	1,027	-30.8%
北相木村	1	6	69	998	1	6	53	-23.2%	803	-19.5%
小海町	2	13	329	5,684	1	8	176	-46.5%	4,676	-17.7%
佐久穂町	4	37	810	13,238	1	19	517	-36.2%	11,355	-14.2%
御代田町	2	31	868	13,982	2	35	954	9.9%	15,018	7.4%
軽井沢町	3	39	1,024	16,970	6	95	975	-4.8%	19,605	15.5%
立科町	1	18	501	8,445	1	16	344	-31.3%	7,296	-13.6%

※学級数は特別支援学級を含む

児童生徒数将来推計

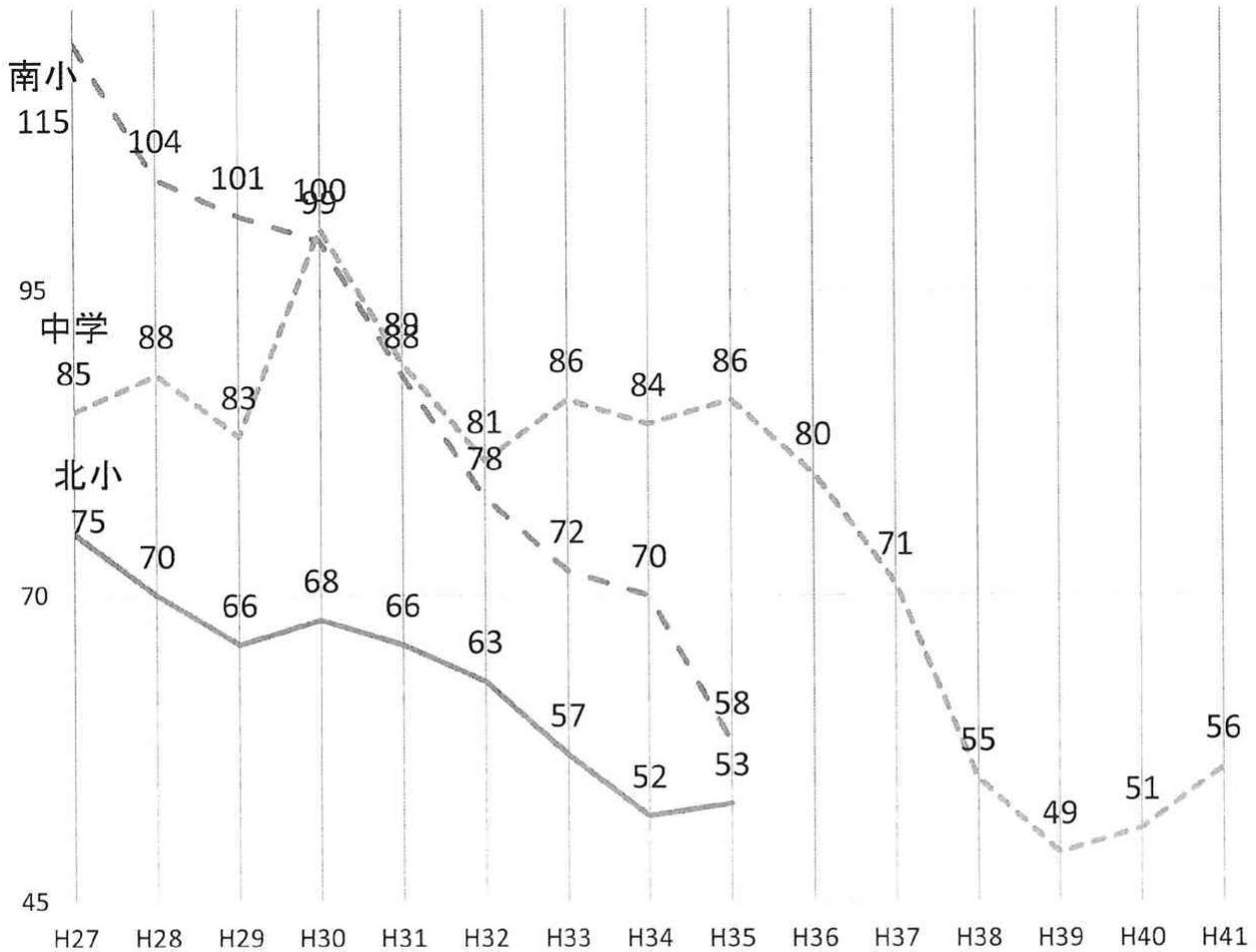
※ 平成28年度までの出生児数による数値（小学校はH35、中学はH41まで）

単位:人

学校名		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
南牧北小学校	入学児	12	7	14	9	7	8	7	8
	全校	70	66	68	66	63	57	52	53
南牧南小学校	入学児	14	20	13	8	4	13	12	8
	全校	104	101	99	88	78	72	70	58
小学校計	入学児	26	27	27	17	11	21	19	16
	全校	174	167	167	154	141	129	122	111
南牧中学校	入学生	39	33	28	28	25	33	26	27
	全校	88	83	100	89	81	86	84	86
児童生徒数計		262	250	267	243	222	215	206	197

学校名	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度	41年度
南牧中学校	27	17	11	21	19	16
	80	71	55	49	51	56

学校別全児童生徒数の推計



平成28年12月26日

南牧村長 大村 公之助 様

南牧村学校づくり委員会
委員長 林 崇 介

今後の南牧村立小・中学校の望ましい教育環境の在り方と
その実現に向けた方策について（答申）

平成28年5月30日付けで南牧村長から諮問を受けた標記の事項について、下記の意見を添えて次のとおり答申する。

答 申

**「現在ある2校の小学校を統合し、統合小学校と中学校において
特色ある小中一貫教育を目指す。」**

《答申の理由》

南牧村学校づくり委員会では、大村村長からの諮問を受け、委員会審議8回、先進地視察2回を開催し検討してきました。また専門的な見地からの意見を集約するために教育専門部会を発足し、今後の南牧村の教育にふさわしい教育ヴィジョンを検討しました。

全国的に進む少子化により、当村の児童・生徒数は現在262名であり、今後もさらに減少することが予想されています。2つの小学校で児童数10人未満の学年が見込まれるなどクラス活動や学校運営に懸念が持たれます。また、三校の校舎は、昭和50年代の同時期に建設され老朽化が進んでいます。

このような状況の中で、南牧村学校づくり委員会は、児童生徒にとってより良い教育環境とは何かを中心に検討してまいりました。児童の成長には、多くの人、多くの物事との関わりを通じて切磋琢磨し、社会性を培い、発達段階や関心の程度に応じた教科学習やクラブ活動等を通して、確かな学力と豊かな心を身につけていく必要があります。そのためには学級の人数は少なくとも15人以上が望ましいと考えます。自治体合併を望まず自立を選択した南牧村にとって、学校規模の縮小は止むを得ないものでありますが、将来を見通した中で、

現段階で最も望ましい教育環境と効率的な学校運営を合わせて検討した結果、小学校の統合と小中一貫教育の導入は最善の方策との結論に至りました。

よって、次の意見を付して答申といたします。

意見

- (1) 児童・生徒にとって最も望ましい教育環境を早急に実現するため、小中一貫教育の研究を深め、ふるさと学習などを中心とした南牧村の学校教育ビジョンが確実に実施されるよう努められたい。
- (2) 統合にあたっては、新しい学校施設を建設されたい。
- (3) 建設地は、既存の小・中学校敷地又は新設も含め、最も適切な場所を選定されたい。
- (4) 児童・生徒の通学手段は、総合的に村が対策を講じられたい。
- (5) 新たな学校は、放課後、自習ができるスペースや、児童クラブ等の多目的な施設を併設されたい。また、他の公共施設との複合化や住民の交流の場となるような学校を拠点とした地域コミュニティの形成に資するものとされたい。
- (6) 厳しい冬期間、児童生徒が運動の機会を確保できる施設を造られたい。
- (7) 学校が無くなる地域の振興に配慮されたい。
- (8) 今後も住民、保護者の声を積極的に聴取し、丁寧な合意形成を図られたい。

以上

「南牧村の教育環境に関する保護者意向調査」結果集計

I. 調査の概要

保護者意向調査対象世帯・・・村内在住で平成 28 年 12 月 31 日時点でお子さんがある世帯
対象世帯数 396 世帯（延べ児童数）

回答数・・・228 世帯（多子世帯は複数回答有）

回答率・・・ 57.6% 228/396

☆ 子供の属性別学校区別回答率

属性	学校区等	対象数	回答数	回答率
未就園		61	31	50.8
保育園	南牧	30	14	46.7
	野辺山	41	21	51.2
小学校	北小	70	42	60.0
	南小	104	45	43.3
	小諸養護	1	0	0.0
中学校	南牧	88	51	58.0
	小諸養護	1	0	0.0
分類不能			24	
計		396	228	57.6

※保育園は年少～年長まで・未満児は未就園に分類

※小諸養護は基本情報 2 に選択肢が無いため回答率は 0.0%と表記

☆ 回答者の内訳

基本情報 1：お住まいの地区

海尻	海ノ口	広瀬	板橋	野辺山	平沢	未記載
24	61	27	26	63	25	2

基本情報 3：お子さんの学年等

未就園・未満児	年少	年中	年長	小1	小2	小3
	31	9	5	20	8	14
小4	小5	小6	中1	中2	中3	分類不能
16	17	18	21	9	18	29

II. 調査結果

(表内数値はすべて%)

問1 現在お子さんが通っている学校の良いと思う点を次の選択肢から、特に良いと思う順番から3つ選び、その番号を解答欄に記入してください。

- ① きめ細やかな学習指導がされていて、子どもに必要な学力がついている
- ② 基礎的な学力の習得に加えて、より深い教育指導がなされている
- ③ 教師や友人との、濃密な人間関係がつけられている
- ④ 学校の行事や部活動・クラブ活動などにすべての子どもが積極的に参加できている
- ⑤ 特別支援教育の体制や内容が充実している
- ⑥ 南牧村や長野県の環境や歴史などのふるさとの特性を活かした教育がされている
- ⑦ 高校進学や就職までの将来を見とおした教育指導がなされている
- ⑧ 子どもの教育に必要な学校の施設が充実している
- ⑨ 学校の施設や通学方法の安全性に必要な心配りがされており、安心して通学させられる
- ⑩ 学校と地域の結びつきがしっかりしていて、お互いに信頼関係が築けている
- ⑪ 保護者どうしの関係が濃密で必要な情報を得られやすい
- ⑫ 特にない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
一番いいところ	18	4	21	13	9	3	0	5	16	1	1	9
次にいいところ	7	8	17	6	10	12	0	6	13	11	5	5
その次にいいところ	10	4	9	10	10	10	0	5	9	13	5	15
計	12	5	16	10	10	8	0	6	13	7	4	9

回答の傾向と考察

選択のばらつきはあるが③、⑨、①の選択が目立つ。③少人数なことによる教師や友人との濃密な人間関係、①きめ細やかな学習指導ができていると評価していることが見られる。一方で⑦将来を見通した学習指導がされているの評価が皆無。

問2 現在お子さんが通っている学校のよくないと思う点を次の選択肢から、特に良くないと思う順番から3つ選び、その番号を解答欄に記入してください。

- ① 子どもに必要な学力がついていない
- ② 基礎的な学力の習得のほかに加えての、より深い教育指導がなされていない
- ③ 教師や友人との人間関係が固定化していて競争力や他者への思いが養えていない
- ④ 学校の行事や部活動・クラブ活動などが十分に行えていない
- ⑤ 特別支援教育の体制や内容が不十分である
- ⑥ 南牧村や長野県の環境や歴史などのふるさとの特性を活かした教育がされていない
- ⑦ 高校進学や就職までの将来を見とおした教育指導がなされていない
- ⑧ 子どもの教育に必要な学校の施設が充実していない
- ⑨ 学校の施設や通学方法の安全性に必要な心配りがされておらず、安心して通わせられない
- ⑩ 学校と地域の結びつきが希薄であり、村の学校という感じがしない

⑪ 保護者どうしの関係が近すぎて窮屈さを感じる

⑫ 特にない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
一番よくないところ	8	13	20	16	5	1	10	3	5	0	5	14
次によくないところ	3	9	14	16	3	13	13	10	6	4	6	3
その次によくないところ	2	5	12	8	4	5	21	6	5	6	15	11
計	5	9	16	14	4	6	14	6	5	3	8	10

回答の傾向と考察

③、④、⑦、②の選択が多い。③人間関係の固定化や競争力など、②基礎学習のほかのより深い教育指導ができていないとする指摘が多い。問1で小規模によりきめ細やかな指導ができていると評価するものと、できていないとする意見の両面があることが伺える。④は少人数により行事や部活動が十分行われていないとの考えが多い。⑦も問1と同様に中学卒業後を見通した就学指導ができていないとの指摘が多い。

問3 現在、小中学校の給食は中学校の給食センターでまとめて作られています。学校給食について満足されている点と不満な点を次の選択肢から3つ選び、その番号を解答欄に記入してください。

- ① 地元の食材を使ったメニューなどの地域性を活かした給食提供
- ② 食の安全に十分配慮した給食提供
- ③ 温かいものは温かく、冷たいものは冷たい適温で提供される給食
- ④ 食物アレルギーに配慮した給食
- ⑤ 子どもの成長に必要な栄養が十分に考えられた給食
- ⑥ おいしくて、子どもが毎日、楽しみにする給食
- ⑦ 食べ方や食事のマナー、食材・メニューから子どもたちがさまざまなことを学び取る食育・給食指導
- ⑧ 特にない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
特に満足	39	10	6	0	13	29	1	2
次に満足	24	19	14	6	26	10	0	1
その次に満足	14	21	9	3	19	19	8	7
計	26	17	9	3	19	20	3	3
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
特に不満	1	5	15	13	2	8	8	48
次に不足	5	3	9	29	2	15	22	15
その次に不満	5	23	5	3	5	13	20	26
計	3	8	12	15	2	10	14	36

回答の傾向と考察

「満足な点」①、⑥、⑤、②の選択が多い。給食の基本である点に最低限満足して頂いているものと思わ

れる。「不満な点」の選択にばらつきはあるが、不満なことは「⑧特にない」が一番多く安心できる。その一方で④食物アレルギーへの対応、⑦マナー指導、③温かい食事の提供に不満があり課題があると思われる。

問4 次の問4から問5は、保育園児や未就園児の保護者にお聞きします。お子さんが将来通学する村の小中学校に求めるものはなんですか。次の選択肢のうちで特に求める順番から3つ選び、その番号を解答欄に記入してください。

- ① 基礎的な学力をつけるための、きめ細やかな学習指導
- ② 基礎的な学力の習得に加えて、子どもの習熟度に応じた柔軟な学習体制の充実
- ③ 学校行事や部活動・クラブ活動などの充実
- ④ 特別支援教育の体制や内容の充実
- ⑤ 義務教育修了後の進学や・就職までの子どもたちの将来を見据えた教育体制
- ⑥ 南牧村や長野県の環境や歴史などのふるさとの特性を活かした教育
- ⑦ 子どもの教育に必要な学校の施設の充実
- ⑧ 学校の施設や通学方法の安全性にに必要な心配りがされており、安心して通学させられること
- ⑨ 子どもたちが南牧村で学んだことや経験したことに誇りを持ち、そこで学んだことやふるさとを自分の原点と思えるような学校
- ⑩ 学校と地域の結びつきがしっかりしていて地域に開かれた学校
- ⑪ 子どもたちの自律する心や困難に立ち向かう克己心こつきしんをはぐくむ学校
- ⑫ 子どもたちにとって将来必要となる競争心や他者への思いをはぐくむ学校
- ⑬ 特にない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
特に求めるところ	17	33	4	2	2	2	0	10	9	1	11	8	1
次に求めるところ	5	15	16	1	15	3	4	7	4	8	10	12	0
その次に求めるところ	4	8	10	11	11	5	8	14	10	3	12	4	0
計	9	19	10	5	9	4	4	10	7	4	11	8	0

回答の傾向と考察

②基礎的な学力の習得に加え習熟度に応じた学習の充実を特に望んでいる。問2でも、深い学習ができていないとする選択があったことから課題といえる。⑤の将来を見据えた教育は、既就学世帯ほどでなく、⑪自立心、克己心が育める学校を望んでいる。

問5 現在、小中学校の給食は中学校の給食センターでまとめて作られています。お子さんが村の小中学校に進学されるにあたり、学校給食に求めるものはなんですか。次の選択肢の中から特に求める順番から3つ選び、その番号を解答欄に記入してください。

- ① 地元の食材を使ったメニューなどの地域性を活かした給食提供
- ② 食の安全に十分配慮した給食提供
- ③ 温かいものは温かく、冷たいものは冷たい適温で提供される給食
- ④ 食物アレルギーに配慮した給食
- ⑤ 子どもの成長に必要な栄養が十分に考えられた給食
- ⑥ おいしくて、子どもが毎日、楽しみにする給食
- ⑦ 食べ方や食事のマナー、食材・メニューから子どもたちがさまざまなことを学び取る食育・給食指導
- ⑧ 給食はなくてもいい。弁当を持たせればよい
- ⑨ 特にない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
特に求めるところ	11	34	2	15	17	15	5	0	1
次に求めるところ	17	16	14	3	17	24	9	0	0
その次に求めるところ	15	9	14	7	13	25	17	0	0
計	14	20	10	8	16	21	10	0	1

回答の傾向と考察

⑧給食はいらない以外は、まんべんなく求められている。問3同様②⑤⑥は給食の基本。

問6 ここから全員に伺います。長野県は全国で唯一、義務教育段階での35人規模学級を実施していますが、南牧村の小中学校は、ほとんどの学級で35人を下回っていて、いわゆる小規模学級・小規模校となっています。初めのグラフのとおり、この傾向は今後どんどん進行していくことが明らかです。小規模校については、子どもたちにもたらすメリットとデメリットの両方が言われてもいます。この点について、あなたのお考えに当てはまるものを次の選択肢から3つ選び、その番号を解答欄に記入してください。

- ① 教師のきめ細やかな学習指導ができるので望ましい
- ② あらゆる場面で教師の目が届きやすく、子どもの安全が確保されるので望ましい
- ③ 人間関係が固定化してしまい、自立心や競争心がはぐくまれない
- ④ 配置される教員数が少なくなるので、より深い学習指導がむずかしくなる
- ⑤ 一人ひとり活躍の機会が多いので望ましい
- ⑥ 特別支援教育や個々のこどもの実情に沿った学習指導や生活指導ができる
- ⑦ 配置される教員数が少なくなるので、特別支援教育や個々のこどもの実情に沿った学習指導や生活指導が困難になる
- ⑧ 学校行事や部活動などが十分に行えない不安がある
- ⑨ 学校自体が存続できなくなる可能性があり不安を感じる
- ⑩ 学校に少人数とか大人数とかの規模は関係ない
- ⑪ 考えたことがない
- ⑫ あてはまるものはない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
特に当てはまるもの	18	13	28	8	4	1	3	15	4	6	0	0
次に当てはまるもの	5	16	17	7	7	4	8	32	3	0	0	1
その次に当てはまるもの	9	4	14	11	7	8	5	24	9	5	0	4
計	11	11	20	9	6	4	5	23	5	4	0	2

回答の傾向と考察

⑧、③、①、②に選択が多い。課題として⑧行事・部活動が十分に行えない、③人間関係の固定化があり、利点として①きめ細やかな学習指導、②教師の目が届きやすいが上げられる。少人数ということは利点も難点もあることが伺える。

問7 現実的に子どもたちの数が減少していくことが明らかななかで、子どもたちにとってのよりよい教育環境を考えるための選択肢のひとつとして、小中学校の統廃合を検討することは避けては通れません。あなたのお考えに近いものを次の中から一つだけお選びください。

- ① 今の3校のままだ
- ② 小学校のみ統合すべきだ
- ③ 小中学校を一つに統合して小中一貫教育をすべきだ
- ④ 保育園と小中学校を統合して保小中の一貫教育をすべきだ
- ⑤ 小学校は他町村の学校と統合すべきだ
- ⑥ 中学校は他町村の学校と統合すべきだ
- ⑦ 小学校も中学校も他町村の学校と統合すべきだ
- ⑧ あてはまるものはない
- ⑨ 興味がない

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
9	20	45	8	0	7	7	3	1

回答の傾向と考察

①現状の3校存続が9%であり、村内でのいずれかの形で統合(②③④)73%でかなり多い。一方で他町村との統合(⑥⑦)が14%あるのは中学校部活動への不満が多いからであろうか。

問8 あなたは、小中一貫教育について知っていますか。

- ① 知っている
- ② よく分からないが聞いたことがある
- ③ 知らない

①	②	③
52	48	0

回答の傾向と考察

小中一貫を③知らないが皆無である。

問9 問8で①知っていると答えた方にのみお聞きします。

南牧村で小中一貫教育を導入した場合、効果があると思いますか。

- ① 効果がある ② わからない ③ 効果が無い

①	②	③
34	56	10

回答の傾向と考察

②わからないの選択が半数以上であるが①効果があるも34%に上る。

問10 あなたは、小中一貫教育について、詳しく説明を聞きたいと思いますか。

- ① 聞きたい ② どちらでもよい ③ 聞きたくない

①	②	③
67	31	2

回答の傾向と考察

①説明を聞きたいが多く、今後、説明会等で周知する必要があると思われる。

小中一貫教育の新たな展開(概論)

1 制度化の目的

全国で進められている小中連携、小中一貫教育の目的については、置かれている様々な状況から極めて多様である。一つには、少子化の進行や地域コミュニティの弱体化、核家族化の進行により児童生徒の人間関係が固定化しやすい中、小中連携、小中一貫教育の実施により、児童生徒が多様な教職員、児童生徒と関わる機会を増やすことで小学生の中学進学に対する不安感を軽減することを目的とする例がある。

中教審答申において、小中一貫教育の制度化の目的については、「小・中学校段階の教職員が9年間を通じて実現したい教育目標を共有し、一体的な組織体制の下、9年間一貫した系統的な教育課程を編成・実施することができる学校種を新たに設けるなどして、設置者が地域の実情を踏まえて小中一貫教育が有効であると判断した場合に、円滑かつ効果的に導入できる環境を整えることである。」とし、このことにより小中一貫教育の優れた取り組みの全国展開と既存の小・中学校における小中連携の高度化が促進され、

- ① 組織的・継続的な教育活動の徹底による教育効果の向上（学力・学習意欲の向上）
- ② 子どもたちの社会性の育成機能の向上
- ③ いわゆる「中1ギャップ」の緩和（不登校・いじめの減少等）をはじめとする生徒指導上の諸問題の減少等に資することとなり、義務教育全体の質の向上が期待されている。

2 新たな学校種の創設

① 義務教育学校

一人の校長の下、一つの教職員集団が9年間一貫した教育を行う新たな学校種を学校教育法に位置付ける ※「学校教育法等の一部を改正する法律」平成28年4月1日施行

② 小中一貫型小学校・中学校（仮称）

それぞれ独立した小・中学校が義務教育学校に準じた形で一貫した教育を施すことができる ※いずれも小・中学校学校指導要領における内容項目をすべて取り扱う形で教育が行われるもの

3 教育課程

○ 上記いずれにおいても教育課程については、

- ① 9年間の教育目標の明確化
- ② 当該教育目標に即した教科等毎の9年間一貫した系統的な教育課程の編成・実施（年間指導計画の策定を含む）

また、現行の学習指導要領に基づくことを基本とした上で、独自教科の設定、指導内容の入れ替え・移行など一定の範囲で教育課程の特例が認められる。

○ 「中1ギャップ」や子供の発達の早期傾向など、地域の児童生徒が抱える教育課題に対

応して9年間の教育課程において6-3以外にも4-3-2、5-4など柔軟な学年段階の区切りを設定できる。

4 施設形態の分類

- ① 施設一体型：小学校と中学校の校舎の全部または一部が一体的に設置されている
(渡り廊下などでつながっているものを含む)
- ② 施設隣接型：小学校と中学校の校舎が同一敷地内又は隣接する敷地に別々に設置されている
- ③ 施設分離型：小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されている

小中一貫教育の二つの類型

	義務教育学校	小中一貫型小・中学校（仮称）
修業年限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9年 （但し転校の円滑化等のため、前半6年と後半3年の課程の区分は確保） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校と同じ
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9年間の教育目標の設定、9年間の系統性を確保した教育課程の編成 ・ 小・中の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設（一貫校の軸となる新教科創設、指導事項の学年・学校段階の入れ替え・移行） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9年間の教育目標の設定、9年間の系統性を確保した教育課程の編成 ・ 小・中の学習指導要領を適用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設（同左）
組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>1人の校長</u> ・ 一つの教職員組織 ・ 教員は原則小・中免許を併有（免許の併有を促進） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学校毎に校長</u> ・ 学校毎に教職員組織 (学校間の総合調整担当を任命、学校運営協議会の合同設置、校長の併任等、一貫教育を担保する組織運営上の措置を実施) ・ 教員は各学校種に対応した免許を保有
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能

5 小中一貫教育の取組実施状況（文科省実態調査）

- ・取組件数：市町村数 211 市町村（約 1 割）
総件数：1,130 件（小学校 2,284 件、中学校 1,140 校）
- ・実施予定または検討中：166 市町村（約 3 割）
- ・国及び市町村の状況を注視している市町村：450 市町村（約 3 割）
- ・実施総件数 1,130 件の内訳
施設一体型 148 件（13%）施設隣接型 59 件（5%）施設分離型 882 件（78%）
その他（併存など）41 件（4%）

6 教育課程の特例の実施状況

- ・独自の教科等の創設 72%
- ・英語教育・外国語教育の導入 82%
- ・指導内容の前倒し 18%

7 乗り入れ指導の実施

小学校においては学級担任制であったものが、中学校においては教科担任制となる。

小学校教員の免許は全教科に対応した免許であるが、中学校教員は特定の教科に対応したものである。小・中学校教職員間で指導の在り方をよく相談し、認識を共有した上で乗り入れ指導を行い、小学校高学年段階等から教科担任制を一部導入したり、小学校から進学した生徒を見守りながら指導する取り組みが広く行われている。

乗り入れ指導は、児童生徒の不安の軽減、いわゆる「中1ギャップ」の解消、教員の他校種に対する理解増進、意識変革等を図る観点から効果がある。

8 地域と共にある学校として

地域コミュニティの衰退、三世代同居の減少、共働きやひとり親世帯の増加といった様々な背景の中で、家庭や地域における子供の社会育成機能が弱まっているとの指摘がある。

また、少子化にともない、単独の小学校では十分な集団規模を確保できない場合が多くなっている。こうした中で、異学年交流を活発化させたり、多くの教師が児童生徒に関わる体制を確保したり、地域の教育力を積極的に学校へ取り入れることへのニーズが高まっている。

今後、9年間を通して学校と地域が連携して子ども達の成長を見守るという考えに立って、小中一貫教育を実施する学校を地域ぐるみで支える場を確保することが重要であり、こうしたことが学校を拠点とした活力ある地域コミュニティの形成に資するものとなる。

また、学校施設は、災害時の避難所となることや、地域の核施設となることを視野に入れ、他の公共施設との複合化を図り、地域住民と共同利用ができる施設となることが有効となる。